

下野市立国分寺小学校

1 学校課題

「できた・わかったと児童が実感できる授業の創造」（1年次）

～授業のねらいの明確化と終末段階でのまとめの充実を目指して～

2 課題設定の理由

児童が、「できた・わかった」と実感できる授業を創造するためには、この時間に何ができれば、何がわかればよいのかを、児童自らが把握していなければならない。そのため、授業の初めに本時のめあてを提示することや、「できた・わかった」が実感できたかという授業の振り返りを行うことが不可欠である。毎時の学習活動で、自分は何ができるようになったのか、何がわかったのかを振り返ることを継続することで、児童は、「できた・わかった」と実感し、自己肯定感が高まり、学習への積極的な取組につながると考える。

さらに、教材・学習形態の工夫や、体験的な学習や問題解決的な学習の充実、さらには「学び合い」のよさをさらに実感できるような指導の工夫等を通して、基礎・基本が定着していくものとする。

以上のように、「できた・わかった」と実感できる授業を創造していくことで、児童が生き生きと意欲的に学習に取り組み、自分の成長を実感し自信と安心感をもち学校生活を送ることができるのではないかと考え、本主題を設定した。

3 研究の仮説

国語や算数等の学習を中心に、以下のような取組を継続的に進めていけば、児童の学習の意欲付けが図られ、学力の向上が図れるのではないかと考え、本主題を設定した。

- (1) 学習内容に応じた授業のねらいを設定すること。
- (2) 課題発見型、問題解決型等の、児童が自発的に学習に取り組む学習問題・学習課題を提供していくこと。
- (3) 終末段階で学習のねらいの達成度合や、児童が把握できるような振り返りの場面を設定すること。

4 仮説検証のための方法

- (1) ねらいの明確化、具体化
 - ① 児童にとってわかりやすい言葉で、本時で何を進めるかがわかるねらいを工夫する。
 - ② 学習単元全体を見通した、単位時間のねらいを設定していく。
 - ③ 学習の最初、体験的活動を実施した後の提示等の、ねらいの示し方を工夫していく。
- (2) 魅力ある学習問題・学習課題の提供
 - ① 児童の活動意欲を高める学習活動を提示し、そこから学習のねらいにつながる学習課題を導き出す。
 - ② 全国学力・学習状況調査やとちぎっ子学習状況調査を教員自身が解き、学習問題の出題傾向を把握し、特に「活用力」を育成するための学習課題の設定や、それらを評価する問題作成につなげていく。
- (3) 振り返りの場面設定
 - ① 学習のねらいに即した、具体的な振り返りの仕方を工夫していく。
 - ② 児童が、自身の学習の肯定感を高められるような振り返り活動を工夫していく。

5 研究の実際

【校内授業研修として】

5月19日	4年 社会 水道の水はどこから
6月17日	1年 国語 くちばし、6年 理科 ヒトと動物の体



6月24日	1年 国語 おもちゃとおもちゃ、3年 総合的な学習の時間 下野市を知ろう 6年 社会 今に伝わる室町の文化と人々の暮らし
9月9日	1年 算数 10よりも大きな数、3年 国語 進行を考えて話し合おう 5年 算数 整数の性質
10月14日	2年 国語 音読げきをしよう、しいの木2組 国語 文の読み取りをしよう 5年 算数 わり算と分数
11月2日	2年 音楽 いい音 見つけて、3年 理科 かげのでき方と太陽の光 6年 国語 筆者のものの見方をとらえ、考えをまとめよう
11月4日	6年 理科 月と太陽
11月11日	1年 国語 くらべて読もう、4年 理科 ものの体積と温度 5年 国語 すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう
12月18日	6年 道徳 よりよい社会をつくろう
1月20日	2年 算数 はこのかたち、 4年 国語 きょうみをもったことを 中心にしようかしよう 5年 国語 特色をとらえながら読み、 物語をめぐって話し合おう
1月29日	しいの木1組生活単元 冬の校外学習に行こう



【S&Uコラボ事業として】

7月9日	2年 国語 お話を読んで、感想を書こう
9月16日	6年 国語 登場人物の関係をとらえ、人物の生き方について話し合おう
12月9日	4年 算数 変わり方

6 成果と今後の課題（4-(1)①等は、上記4 仮説検証のための方法との対応で示した）

(1) 成果として

- ①算数の学習課題を設定する際に、「～を調べて変化のきまりを見つけよう」という児童の学習行動を表す言葉として示したりしたこと、児童がその授業において何をしたらよいか明確になり、一時間を通して集中して学習活動に取り組むことができた。（4(1)-①）
- ②単元を通して一冊型やOPP型のワークシート等を活用した授業に取り組んだことで、児童が常に学習経過を振り返ることができると共に、単元の見通しをもって、学習に取り組むことができた。また、教師にとっても形成的な評価を行えることにつながった。（4(1)-②）
- ③授業のはじめに興味をそそる話題や疑問の投げかけをした後に学習課題を提示したり、授業の端々に学習話題の中に含まれるキーワードを再確認できる場面を設定したりすることで、児童の学習意欲を喚起し、主体的に学習に取り組むことができるようになった。（4(1)-③）
- ④体験的活動や話し合い活動の際に、ペアやグループ、集団での話し合い等学習のねらいに応じた学習形態を取り入れることで、児童の活動意欲を喚起することができた。（4(2)-①）
- ⑤日頃の授業において「振り返りの時間」を確保したことで、「振り返りの結果」を指導に生かそうとする教師の意識が高まった。（4(3)-②）

(2) 課題として

- ①学習課題の提示法や提示の時期・話題に関するバリエーションを整理し、日常の授業への活用につなげていく必要がある。（4(1)-①）
- ②一冊型やOPPシートなどが効果的に働くと思われる単元について協議検討を進めていく必要がある。（4(1)-②）
- ③全国学力・学習状況調査やとちぎっ子学習状況調査問題を全職員でさらに詳しく分析し、引き続き「学習課題の設定」や「評価問題の作成」に取り組み、思考力・判断力・表現力等の「活用力」の育成を図り、学力の向上を目指していく必要がある。（4(2)-②）
- ④児童が学習を振り返る際の手法（短時間で、分かりやすく）や振り返った結果をより有効に活用する方法について、さらに研究を深化させる必要がある。（4(3)-①、②）
- ⑤話し合い活動を取り入れるべき学習と一斉授業が有効な授業について、授業研究を行う際に協議検討し、ねらい達成につながる学習活動や学習形態を設定していく必要がある。（4(3)-②）